

## 静岡県静岡市 静岡駅前ゴールデン街（地下ガス爆発事故）



### 1. 火災の特色

静岡駅前ゴールデン街で発生した爆発事故。一次の爆発は、地下に溜った可燃性ガスに引火し、発生した。さらに一次爆発によりガス管が損傷して漏れたガスに引火して二次爆発が発生した。二次爆発で、消火に当たっていた消防職団員5名を含む15名の死者と223名の負傷者を出した地下街の爆発、火災である。

### 2. 出火日時等

#### (1) 出火日時

昭和55年8月16日（土）1次爆発 9時30分頃、2次爆発炎上 9時56分

#### (2) 覚知日時（覚知方法）

昭和55年8月16日（土）9時30分（119番通報）

#### (3) 鎮火日時

昭和55年 8 月16日（土）15時30分

### 3. 火元の概要

(1) 所在地

静岡県静岡市紺屋町 7-16

(2) 火元建物等の名称

ゴールデン街第一ビル

(3) 火元建物の構造、形態等

① 建築年月

昭和39年12月完成

② 建物用途

複合用途防火対象物（16）項イ

③ 構造

耐火構造地上 6 階地下 1 階

④ 面積（建築面積）

建築面積 719.85㎡

延べ面積 3,510.24㎡

⑤ 収容人員

712人

⑥ 従業員数

不明

⑦ テナント数 88店舗（内第一ビル49店舗 地下街39店舗）

区分所有者 8 人（大楽天、大和田の所有者含む）

⑧ 建物階数別用途及び床面積

階	面積	用途
6	137.95㎡	店舗等
5	533.74㎡	〃
4	533.74㎡	〃
3	533.74㎡	〃
2	533.74㎡	〃
地上 1	533.74㎡	〃
地下 1	703.59㎡	〃
合計	3,510.24㎡	

(4) 火元建物の消防用設備等の設置状況

① 消火設備

消火器、屋内消火栓設備

- ② 警報設備  
自動火災報知設備
  - ③ 避難設備  
誘導灯、避難器具 4・5階緩降機各 1基
- (5) 防火管理の状況  
静岡駅前ゴールデン地下街共同防火管理協議会々則により定められている。
- ① 防火管理者  
選任届 昭和46年12月（共同防火管理協議会設置及び統括防火管理者選任）
  - ② 消防計画  
届出済
  - ③ 避難訓練  
訓練防火帯ブロック単位で数回実施。

#### 4. 気象状況

- (1) 天候  
曇り
  - (2) 風位、風速  
風位：南 風速：1.8m/s
  - (3) 気温、湿度  
気温：26℃ 相対湿度：78% 実効湿度：73%
  - (4) 警報・注意報、特異事項
- (5) 出火原因
- (1) 発火源
    - 1次：ガスコンロの火
    - 2次：不明
  - (2) 経過
    - 1次：地下湧水槽にたまったガス（メタンガスとみられる可燃性ガス）ガスコンロの火が引火
    - 2次：1次爆発によってビル内の都市ガス配置に亀裂が生じ、地下階に拡散し、何らかの火が引火
  - (3) 着火物
    - 1次：ガス（メタンガスとみられる可燃性ガス）
    - 2次：都市ガス

#### 6 損害状況

- (1) 人的状況
  - ① 死者  
15名（消防吏員 4名 消防団員 1名 その他10名）

(48時間後更に1名死亡)

② 負傷者

223名 (消防吏員28名 消防団員2名 その他193名 計223名)

(2) 物的損害

① 火元建物

ア爆発と火災による被害

1棟 44店舗及び事務所等 建築面積719㎡ 延面積3,510.24㎡ 車両2台全損

イ爆風による被害

58棟 131店舗及び事務所等	主な損傷建物の名称
	ゴールデン第一ビル (焼損)
	西武百貨店 } 破損
	進和ビル }

ウ損害額 554,226千円

② 類焼建物

西武百貨店、進和ビル—一部破損

7. 火災の経過 (火災の様態)

(1) 出火場所等の状況

1階店舗内と思われるが、広範囲のガス爆発のため店内か天井裏かは判定できない。

1次爆発により駆けつけた消防・救助隊が活動中2次爆発が起こり大惨事となった。

(2) 出火に至るまでの経過

9時27分頃メタンガスとみられる可燃性ガスに、コンロの火が引火して地下店舗で爆発したが、このときはまだ出火には至らなかった。この爆発により都市ガス配管が損傷し、洩れたガスがダクトを通じて地下及び1階店舗内に流れ込み何かの火が引火し爆発、出火したものと推定される。

(3) 火災発見の経緯

9時30分頃第一ビル地階の飲食店でガス爆発で119番が入る。

(4) 消防機関への通報状況

ゴールデン街第一ビル1階の靴屋「ダイアナ」から119番通報、のち2次爆発後は無線通報。

(5) 初期消火の状況

1次爆発発生後、出火していなかったが、出火に備えて放水態勢を整え地下の爆発現場へ進入した。地下街ではガス漏れの検知や避難誘導を行う一方で換気作業に移ろうとしていたとき2次爆発が発生したものである。

(6) 死者の状況

1次爆発によって救出作業を行っていた消防職員・団員や近辺在住者等が2次爆発によって死亡した。

(7) 避難の状況

自力避難又は救助隊によって誘導されるか救助された。

(8) 自衛消防隊の活動状況等

組織的活動はできなかった。

(9) 火災拡大の状況

都市ガスは空気に比べ軽いいため天袋、空調ダクトなど建築物のくぼみになっている通風性の悪い空間によどんだり、エレベーターの昇降路などを通して上に流れ、そのガスが地下街からビルへ充満していったと推定される。さらに、1次爆発によってガス管が損傷したため、2回目の爆発で、地下街とビル1階の同時爆発を起こした。出火後は、数回爆発があった模様であるが、これはガス管が完全に閉止できるまで時間がかかったためと推定できる。

## 8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両

指令車	4台
タンク車	7台
化学車	2台
救助工作車	1台
はしご車	3台
連絡車	8台
防災車	1台
救急車	6台
消防団	11台
計	43台

② 出動人員

消防長以下職員	332人
消防団員	376人
計	708人

(2) 消防機関の消火・救助活動の状況

消防隊は、出火に備え放水態勢をとりながら地下へ進入した。人命検索を行い、9時35分には火災警戒地区を設定「火気厳禁」と「現場周辺からの退去」の広報活動実施中、1次爆発地点からコンクリートの壁と機械室と更にコンクリートの壁を隔てた位置にある屋内階段のビル内1階に通じる踊り場でガスを検出したため、ガス検知作業員が更にガス漏れの場所、規模、範囲等の確認に全力を注いだ。隊員は地階の人命検索、避難誘導を行う一方、換気作業等の活動に移り、地上では避難誘導を行っていたところ2次爆発が起きた。

① 消火活動

火災防ぎょ活動としては、2次爆発と同時に火災が発生し、待機していたものに負傷者が

出たため、応援隊を得て、消火活動を行う。14時10分にガス管の閉止。15時30分鎮火した。

## ② 救出活動

火災は上階へと延焼拡大していき、爆発による破壊物等で消火活動は困難を極め、延焼拡大防止とビル内の避難誘導、はしご車による救出を行った。

中央はしご車隊は屋上より2名(女2名)、南はしご車隊は屋上より1名(女)を救出した。また、他の隊は地下道及び地上で爆発によりガレキの下敷となった者を多数救出した。

医療機関収容状況

病院収容(9病院)177名、医院収容31名

## 9. 問題点・教訓

### (1) ガス漏れ出場の際の消防活動のあり方について

#### ① 警戒体制のあり方

(ア)警戒区域の設定の方法、立入禁止及び避難の徹底のさせ方の方法について、周知徹底をはかる必要がある。

#### ② 広報のあり方

警戒区域設定時における火気の使用禁止の公報について研究する必要がある。

### (2) ガス保安対策

#### ① ガス臭の強化、ガス漏れ警報器の設置、ガス検知器と連動する緊急遮断弁の設置を促進することが必要である。

10. 資料

図-1：配置図

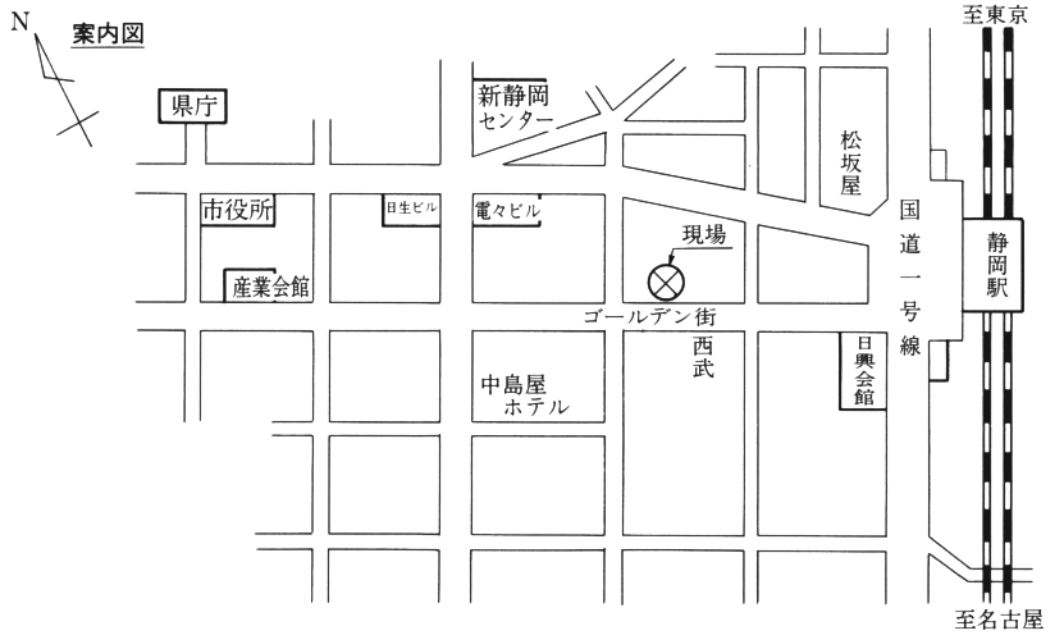


図-2：1階平面図

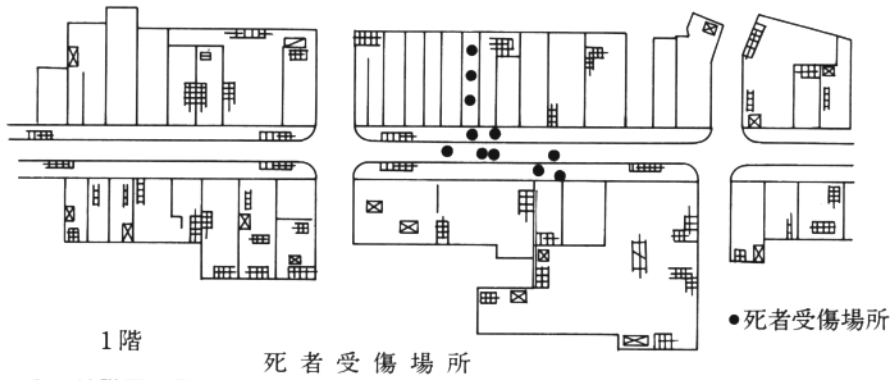
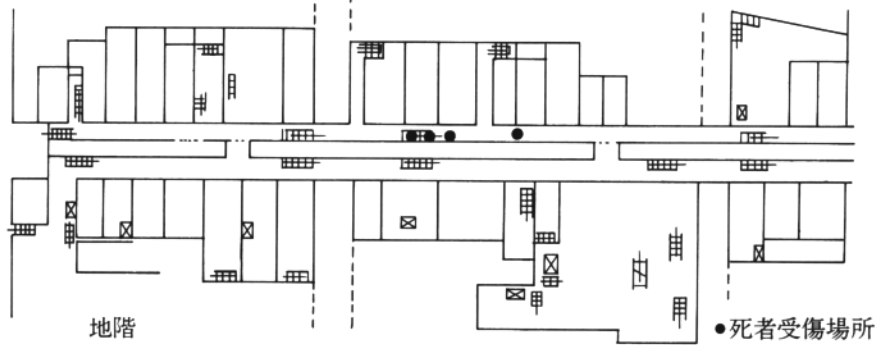
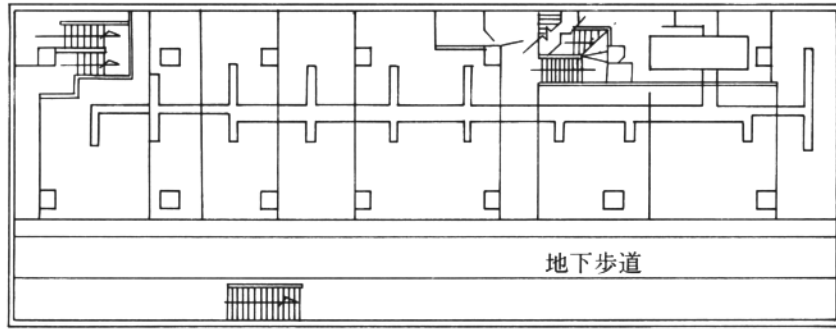


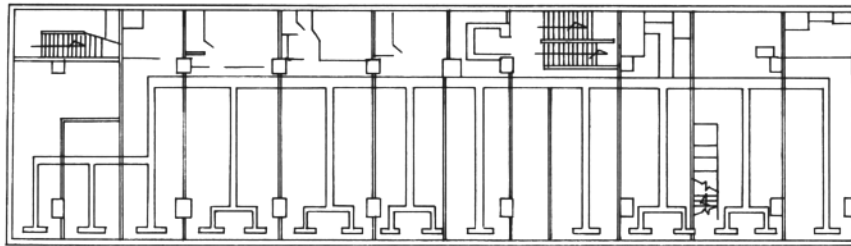
図-3：地階平面図



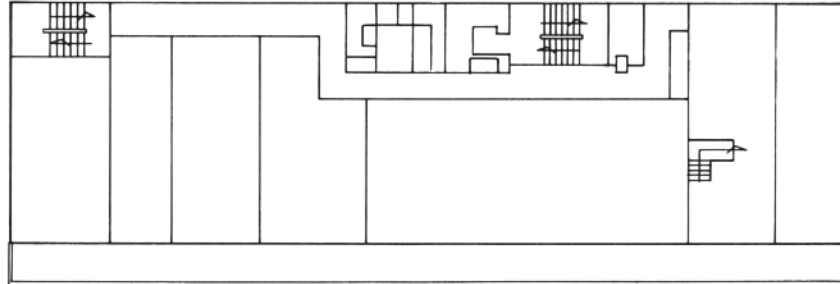
图一4：地階平面図



图一5：1階平面図



图一6：2，3階平面図



图一7：4階平面図

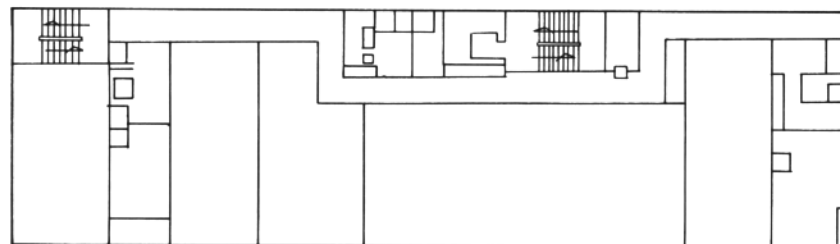




图-8：断面图

